2024年度　青森市内高等学校との意見交換会議事録

１　日　時：2024年10月17日（木）14：00～15：10
２　場　所：青森明の星短期大学　1401教室
３　テーマ：「産官学連携事業がより地域に開かれるには」
４　出席者：別紙参照
５　内　容

〈開会〉
　青森明の星短期大学千葉より意見交換会の開会が告げられた。

〈出席者紹介〉
　出席者については、出席者名簿にて確認され、青森市企画部連携推進課中村課長が欠席であると連絡された。

〈挨拶〉
　青森市産官学連携プラットフォーム花田会長（青森明の星短期大学学長）より、「高校としてキャリア形成に関する人材育成に日々尽力していると考えている。青森市内の高等教育機関として高大連携を実施し、よりよい人材育成に繋げていきたい。自由な意見交換の場としたい。」と開催にあたっての挨拶が述べられた。

〈意見交換〉
　青森明の星短期大学三國事業部長より、今回のテーマについて昨年度は、各大学より提供できる教育内容を提示し、教育資源の共有化を図った。そのことを受けて、今年度は「産官学連携事業がより地域に開かれるには」をテーマとして、高校側がどのようなことを産官学に期待しているのかについて意見交換を図りたいと説明された。
　事業提案表の各機関の事業について各担当者から以下のとおり説明された。

青森明の星短期大学
　保育、介護、ビジネス分野について広いテーマで事業をしている。高校側の要望に合わせて実施することも可能。

青森公立大学
　出張講義、公開講座として経営経済学部の会計学、経済学、統計学と教養分野を実施している。

青森県立保健大学
　大学は、看護師等の専門職養成の基盤となっている専門性を講義として実施している。高校側からの要望に合わせて実施することも可能。大学院は研究が中心、それをどのように活

用していくか。

青森大学

出張講義を中心に実施している。総合経営学部、社会学部、ソフトフェア情報学部、薬学部の学部があるためそれらの専門科目を実施している。大学には「学びたい」「地元が好き」という学生が一定数おり、彼らをどう育てるかが重要だ。高校との連携が大切だと考えている。

青森中央学院大学・青森中央短期大学

出前講座を中心に実施している。事業提案表に記載はないが他プロジェクトなどで高校と連携して実施しているものがある。近年は留学生と交流できる場の用意もしている。

青森市

事業提案表のとおり高校を含む市民の方向けの出前講座を中心に実施している。また、街づくりに関する事業、地域課題に関する事業を実施している高校生（大学生含む）に補助金を出す事業をしている。

青森商工会議所

コロナウイルスの影響により現在連携していないが今後連携していきたい。この場を借りて高校側からの意見が欲しい。

各高等学校出席者からは以下の意見があった。

青森中央高校

テーマの「開かれる」という表現は受け身な印象がある。高校側に希望がある場合に教えを受けるという垂直的な繋がりになっている。「開く」だけではなくそれを高校生に結びつけることが大事になってくる。

県外への流出が多い現状を踏まえて若者を地元に定着・進学させるためにプラットフォームとしてなにができるのか。それをゴールにすべきではないか。

「レジリエンス」をキーワードに、高校生が大人と一緒に社会の役割を担う取組が重要ではないか。そういう取組を通し、生徒は急速に成長する。

青森中央学院大学と連携し横内の地域ねぶた協力隊として参加した際に、チラシ作成から SNS 広報など様々な役割を高校生が担った。活動を通してどんどん成長していく様子に驚いた。

今後はお客さんとして企画に参加するのではなく、高校生を企画自体に巻き込んで社会の役割を担ってもらうという連携になっていくと考えている。

北斗高校

不登校を経験した学生が多い。高校入学後に 9 割の子は登校している。中には優秀な学

生もいるが経験不足や集団での関わりなどから躓いてしまい、その先の進学まで考えられない。就職をしても即戦力として扱われ、できないことがあると怒られて帰ってくるという現状。首都圏では、丁寧に指導をしてある程度の期間で育てていくというサポートシステムがある。高等教育機関にも同様のサポートをお願いしたい。

青森北高校

高校生はバーチャルな世界で生きている。子ども達のモラルが追い付いていない。いろいろな大人と関わる機会として世代間交流ができないか。青森の良さを通じて一緒に成長できればと考えている。

青森明の星高校

産官学で行われている事業の中でどのような話がされているのか、高校生は地域課題の解決に対して熱を持って進学していくが、自治体として高校生の立ち位置をどのように考えているのか、高校生が発信できる機会があるのかなどについて知りたい。

高校として高校 3 年間で即戦力の学生を育てたいと教育に取り組んでいる。高校生が持っているパワーを地元に還元できる場が欲しい。

青森東高校

「地域を学ぶ」ことについては調べ学習で終わっているのが現状。実際に各機関が実施している講座の高校生の参加者数はどの程度なのか。

保健大学

公開講座に多くの高校生がきてくれた。少人数ゼミの講座・研究紹介にも高校生が参加してくれている。主に研究内容、研究室を紹介した。

青森公立大学

大学院の公開講座に高校生は参加している。一般向けの講座にも参加があり、主に教養系の講座が比較的多い。専門の教員がいるため高校側から要望欲しい。

青森中央学院大学・青森中央短期大学

高校生は忙しいため、参加しやすいようにオンライン上でも講座を実施している。高校生スキルアップ講座も実施している。

青森大学

公開講座に高校生は来ていない。高校生の未来のパートナーとしてどうするべきなのか考える必要がある。

青森高校

全生徒が課題研究に取り組んで 11 年目になる。選ぶ課題として地域課題が多いが、地域

のことを知ったからといって地元定着することはなく多くが県外に進学していく。必ずしも青森の魅力＝定着ではないと感じている。小さなころから高等教育機関と関わる機会として小中学生を対象になにか実施していないのか。

青森中央学院大学・青森中央短期大学

幼児保育、看護の分野に関して実施している。プラットフォームとしてはジョブキッズ、ジュニアエコノミーカレッジなどで実施している。

青森大学

情報提供として弘前市で市が中心となって 10 年後の U ターンを見据えて施策を実施している。出ていくのを止めるのは難しいため、出て行っても戻ってきたくなるように。共同学習、地域産業、起業など中心にマトリクスを組み現在 5 年目となっている。

青森商業高校

探求学習の中で同じような課題・テーマ（人口減少など）で研究している高校生が多い。それぞれの業界、組織の課題について知る機会が欲しい。

青森南高校

3 年ほど前からグローバル教育を掲げ教育をしてきて、最近定着してきたように感じている。DX ハイスクールモデル校として採択され、国際バカロレア（IB）候補校となっている。青森中央学院大学の台湾の高校との交流事業にも参加している。

進路調査をしていて今回の事業提案に合致するテーマが多くあり、学生はここから選んでいたのではないかと感じた。

花田会長より、「多くの視点からご指摘いただけた貴重な機会となった。プラットフォームとして現在 40 近い事業を実施しているが、高校生に対して向けて実施しているものは少ない。互いに歩み寄って能動的な学習が必要になると感じた。」と述べられた。

〈その他〉

・青森市より奨学金検索サイトについてチラシのとおり説明された。
・青森中央学院大学より海外と高校との交流についてコーディネートしているので、もし希望があれば教育委員会を通じて依頼して欲しいと連絡があった。

〈閉会〉

三國事業部長により、意見交換会の閉会が告げられた。